




## 審 査 結 果 の 要 旨

報告番号	甲 第 1316 号	氏名	岡崎 真悟
審 査 担 当 者	主 査	山下 典雄	
	副主査	牛嶋 公生	
	副主査	石藤 公昭	
主論文題目： Iliac intramedullary stabilization for Type IIIA fragility fractures of the pelvis (脆弱性骨盤骨折 Type IIIA に対する腸骨髄内固定法)			

### 審査結果の要旨（意見）

本論文に示す ILIS 法は著者が考案したオリジナルな手法で、低侵襲かつ術後 1 日目からの全荷重が許される手術法である。当然のことながら術後早期からのリハビリが可能で入院期間の大幅な短縮も実現されている。超高齢化社会を迎え、今後脆弱骨盤骨折は増加することが予想され、社会復帰もしくは自宅退院までに長期間を要しやすい高齢者の骨盤骨折治療を鑑みるに、本手術法は極めて有用かつ有意義であることが期待される。また、手技的にも比較的簡便で安全に行われる手術法と考えられる。しかしながら、症例数としてはまだ少ないため、今後は本手術法による症例を積み重ね、有用性と安全性の検証を行う必要があるが、いずれ世界的にも高く評価される手術法となることが期待される場所である。

### 論文要旨

脆弱性骨盤骨折(FFPs)Rommens 分類 Type IIIA に対する固定法の文献はほとんどない。今回、FFPs Type IIIA に対する内固定法として、iliac intramedullary stabilization (ILIS)と呼ばれる我々の低侵襲な手術法を紹介する。この手技は femur internal rotation reduction method (FIRM)という腹臥位の状態で大腿を内旋させることで外旋筋群を利用して骨片を整復する非観血的整復法を含む。FIRM を行いながら 2 本の腸骨スクリューを両側の腸骨に supra-acetabular bone canal を通して挿入し、2 本のロッドと 2 個のクロスコネクターを接続する。この内固定法を ILIS と呼んでいる。2017 年 10 月から 2019 年 10 月までに当院でこの手技を用いて治療した FFPs Type IIIA 患者を後ろ向きに集め、6 か月以上経過観察した 10 名(女性 9 名、男性 1 名; 平均年齢 85.2 歳)について検討した。全例立位からの転倒で FFPs を生じた。術中および術後の結果を評価した。平均手術時間は 145.1(94-217)分、平均出血量は 258.5(100-684)ml であった。全例術後 1 日目から全荷重を許可した。明らかな再転位なく全例骨癒合し、術後 6 か月には術前の歩行能力まで改善した。結論として、我々の ILIS は FFPs Type IIIA に対し術後 1 日目から全荷重を行える十分な固定力をもった低侵襲な内固定法である。